

日本語予備コース(第4期) (年次報告(平成24年度後期・25年度前期) | 日本語・日本事情教育)

著者	袴田 麻里
雑誌名	静岡大学国際交流センター紀要
巻	8
ページ	107-110
発行年	2014-03-04
出版者	静岡大学国際交流センター
URL	http://doi.org/10.14945/00007693

日常生活において基本的なコミュニケーションができる

内 容：テープ・ビデオ・会話などの聞き取り

使用教材：『みんなの日本語 本冊』初級Ⅰ・Ⅱ（スリーエーネットワーク）

テープ・ビデオなど適宜

作文 1コマ/週

目 的：既習の語彙や文型を文章の中で適切に使えるようにする。さまざまなテーマで作文を書くことによって、語彙・表現を増やす。

内 容：全体的な構成を意識しながら、日常的なトピックについて作文を書く・文集作成

使用教材：『やさしい作文』（スリーエーネットワーク）

漢字 1コマ/週

目 的：日常生活・勉学生活に必要な基本的漢字の読み書きを身につける。

日本語研修コース修了後も自分で学習を継続できるような漢字学習法を学ぶ。

内 容：初級前半の漢字の読み・書き、読解

使用教材：『みんなの日本語 漢字 英語版』Vol.1（スリーエーネットワーク）

『みんなの日本語 初級で読めるトピック25』（スリーエーネットワーク）

日本の生活 1コマ/週

目 的：主に新規来日の学生を対象とする。スムーズに日本の生活に適応するため、基礎的な日本文化・社会に対する理解を深める。

内 容：日本の文化・習慣など、日常生活で最低限必要なこと。見学などを随時行なう。

使用教材：適宜

平成24年度日本語予備コース（第4期）

袴田 麻里

1. コースの趣旨と目標

14年度後期より開講してきた学部入学前予備教育プログラム（日韓理工系学部留学生コース）を、21年から研究生向けに変更し後期にのみ開講している。

本コースは、修士課程進学を前提に本学で研究生として在籍する留学生に対して、大学院受験に足る、また、修士生として勉学できる日本語能力（日本語能力試験2級以上）を身に付けさせることを目標としている。中級から上級レベルの語彙、文法、漢字能力の補強、発話能力、作文能力の育成を行った。

2. 授業期間

第4期：平成24年10月9日～平成25年2月8日

3. 受講生

プレースメントテストを実施し、初級終了程度の日本語力を持つ研究生3名（中国）と交換留学生2名（韓国）が受講することになった。4名は全員が90%以上の出席率であったが、1名は6割程度の出席率であった。

4. 日程と時間割り

〈日程〉	10月2日（火）	プレースメントテスト
	10月4日（木）	ガイダンス
	10月9日（火）	コース開始
	12月7日（金）	中間試験
	2月6日（水）	期末試験
	2月8日（金）	コース修了

〈時間割と担当者〉

	月	火	水	木	金
08：40－ 10：10	文法、語彙 [国セ専任]	文法、語彙 [非常勤]	科学系日本語 [非常勤]	文法、語彙 [非常勤]	文法、語彙 [非常勤]
10：20－ 11：50	聴解 [非常勤]	作文 [非常勤]	速読 [非常勤]	会話 [国セ専任]	作文 [非常勤]

5. 授業概要

表現したいことを適切に表現できるようになること、文法・語彙と共に修士生としての勉学に必要な漢字習得を学習目標としている。また、大学生活により密着した表現形式を身につけさせるため、作文教材の改善、会話コマの内容改善を行った。

語彙・文法 4コマ／週

使用教材：『文化中級日本語Ⅰ、Ⅱ』（文化外国語専門学校）

目 的：①精読を通して、語彙、文法に理解を深める。

②中級から上級レベルの漢字を習得する。

内 容：教科書本文を精読後、提出された語彙の確認を行なう。類義語、対義語がある場合には、同時に提示する。どのような場面、文脈、文体で使用するのかを明確に理解できるよう、例文を多く用い説明する。また、理解の程度を確認するため、3～4コマに1コマは復習の時間を設ける。漢字テストは1課終了ごとに行なう。

速 読 1コマ/週

使用教材：新聞、雑誌などから適宜

目 的：細かい部分にこだわらず、全体をつかむ読み方ができるようになる。また、日本語の文章構造に慣れ、重要項目、重要段落を探せるようになる。

内 容：教材を規定時間内に一読し、キーワードの抽出を行なう。また、文章の構造を把握するために、段落ごとに要約をする。最後に全体の内容の理解度を確認する質問を行なう。

作 文 2コマ/週

使用教材：自主製作教材

目 的：話し言葉と書き言葉の違いを理解し、使い分けられるようになる。日本語の文章表現法を身に付け、まとまりのあるレポート程度の文章が書けるようになる。

内 容：例文を通して作文のための表現を学び、練習問題で表現の使い方を理解する。次に1つのテーマについて資料をもとにディスカッションを行ない、その内容を学んだ表現を使いながら作文する。

聴 解 1コマ/週

使用教材：『文化中級日本語 I、II』（文化外国語専門学校）

『毎日の聞き取り 50日 中級』上、下（凡人社）

『毎日の聞き取り 50日 中級プラス』上、下（凡人社）

目 的：細かい部分にこだわらず、全体をつかむ聞き方ができるようになる。また、日本語の発話に慣れ、発音や強調など音声上の特徴から要点を聞き取れるようになる。

内 容：語彙・文法で導入された項目を音声を通して再度確認する。適宜、重要語句や表現の提示を行ない、発話練習の準備とする。聞き取りにかかった部分については、その理由について考察する。

会 話 1コマ/週

使用教材：『文化中級日本語 I、II』（文化外国語専門学校）

目 的：語彙・文法、速読で得た語彙や表現を口頭で表現できるようになる。

内 容：語彙・文法、速読の教材の内容について、ディスカッションを行なう。また、同じ話題で日本人ボランティア学生ともディスカッションを行ない、対話の形式、質問に対する返答など適切に発話できるよう練習する。

科学系日本語 1コマ/週

使用教材：『留学生、研修生のための科学技術日本語』（金沢工業大学）

目 的：工学部では日常的に使用されるが、日本語教材では取り上げられない語彙、表現を身に付ける。

内 容：1コマ1課で「手を使う」など項目ごとに動詞、また状態を表す副詞の導入、練習を行なう。受講生の母国語に対応する語が必ずしもあるとは限らないため、できるだけ実物や動作を使い、具体的な理解を促す。課ごとに理解を確認するテストを行なう。

6. 学内での連携

集中コースという性格上、研究室での活動に制限が生じる恐れがある。そのため、受講生が研究活動と日本語学習のバランスを取れるよう、プレイスメントテストの結果を指導教員にも送付し、集中コースについて指導教員から理解を得た。また、申込み用紙には、受講者と指導教員が受講理由を書く欄を設け、指導教員からの受講許可を明確にした。

中間試験、期末試験結果は、履修状況とともに指導教員へ送付し、指導教員が指導留学生の日本語学習状況を把握できるようにし、相互に連絡を取り合いながら、指導にあたった。また、留学生支援ボランティアを教室に招いてインタビューさせるなど、学んだことを使い、同時に多様な日本語に触れられるよう心がけた。

平成24年度 NIFEE コース（第4期）

袴田 麻里

1. コースの趣旨と目標

工学部でのNational Interfacing Engineers Education program（NIFEE）開始に伴い、21年度後期から開講した。NIFEEは、日本のモノづくり、品質管理・生産管理を学ぶための特別講座が組み立てられており、日本語・日本文化とともに工学分野が勉強できる留学生プログラムである。対象は、タイ、ベトナム、インドネシアの3国のみである。

初年次秋学期は導入期間とされており、国際交流センターは、全学教育科目として、初年次秋学期に日本語集中授業（週10コマ）を担当した。

2. 授業期間

第4期：平成24年10月9日～平成25年2月8日

3. 受講生

ベトナム・フエ省（2008年11月18日締結）との協定による特別選抜留学生2名に加え、5名の一般選抜留学生（ベトナム4、インドネシア1）の受入れであった。

4. 日程と時間割り

〈日程〉	9月19日（水）	一般選抜学生来日
	9月26日（水）	特別選抜学生来日
	10月2日（火）	プレイスメントテスト
	10月4日（木）	ガイダンス